

成果指標				
成果指標	プランチにおける総合相談件数と地域包括支援センターにおける総合相談件数の総数を指標とする。			
指標設定の考え方	総合相談件数は高齢者の不安軽減、解消につながるものであるため、相談件数の総数を成果とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	3000	2300	2500	0
実 績	2253	2396	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	委託機関により相談件数にばらつきがあるものの、高齢者の不安軽減に貢献している。今後、地域ケア会議の推進に伴い、個別事例の検討や支援を通じ、地域課題の把握など相談窓口事業の見直しを検討する必要があると考えられる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	2	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	介護保険サービスを中心とし、高齢者を取り巻く不安や心配ごとに対応する相談窓口の委託事業である。これらの機能に加え、介護保険法の改正により、地域の相談窓口としての機能の強化や市の政策決定にもつながるケア会議の開催も付加されることになった。相談窓口となる委託事業所の機能強化が重要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題